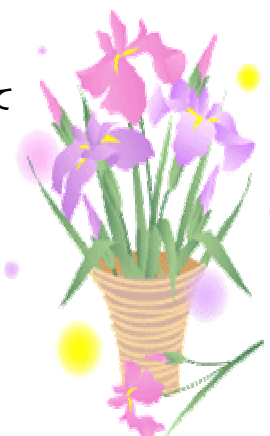


サポーターの皆さんお元気ですか？

府立高校では、新入生を迎えて新年度が始まりました。そして、新緑の季節がやってきました。サポーターの皆さんも、それぞれの生活、活動を新しい気持ちではじめていらっしやと思います。

大変遅くなりましたが、昨年12月に行われた教育サポーター交流会の報告と、これまでのニュースをお届けします。



教育サポーターの交流会



12月22日(土)の午後に、2007年度第2回目の教育サポーター交流会をひらきました。年末の忙しい時期にもかかわらず、20名の教育サポーターと大阪府教育委員会・大阪府在日外国人教育研究協議会の安野さん・ゲスト2名とピアにほんごの計25名の参加でした。まず、日本語指導の専門家のサポーターさんに『日本語指導ワンポイントアドバイス』をしてもらいました。そして、安野さんから、府教育セ

ンターがもっている教材の紹介と提供をしてもらいました。後半はサポーターさんのお国自慢の料理やお菓子の差し入れを食べながら、『生徒や学校とのコミュニケーションのとり方で工夫していること・困っていること』をグループに分かれて話しあいました。まだまだ話したらない2時間でした。その後、場所を変えて忘年会を開き、日頃顔を合わすことができないサポーターさんたちと時間を忘れておしゃべりをしました。

日本語教育ワンポイントレッスンから

「日本語の発音指導について」

日本語の発音で拗音、長音、促音、濁音は難しい。「ツ」「チュ」、「カ」「ガ」、「ショ」「ショウ」、「オバサン」「オバアサン」等の区別が難しい。それぞれの母語話者には発音上の特徴があるが、その生徒にとって発音指導が「今」必要かどうかは考えるべきである。発話が増えて、コミュニケーションができるようになってから、「その発音では誤解される」と思われる発音から直していくのがいい。しかし、発音が多少悪くても、言葉の量が多いとコミュニケーションは十分できるので、早い段階で厳しい発音指導をすると、生徒は話すことが嫌になるので気をつけること。

①生徒がどんな発音をしているか指導者が真似をして、口の中(舌)がどうなっているかを知ってもらい、生徒にもさせてみる。口の中の絵を描いて説明するとよい。



②「チュ」を習得させるために「チ」「ユ」という2音を少しずつ早く言わせて「チュ」にする。

③長音の場合、両手で広げた幅で長さを感じさせる。あるいは手を打って拍をとる。例えば、「セーター」を手で4回打って、長音を気づかせる。

④発音指導は、動作をつけたり、大きさに違いを発音して指導するとよい。

⑤指導者が「チュ」「ツ」などの違いを発音して、生徒が聞いてその違いがわかるかどうかを知る。また、生徒の発音と指導者の発音の違いをテープで録音して、聞かせて違いを教える。

「レベルの違う2人の生徒を一緒に教える時にどうすればいいか？」

—生徒のニーズが全く違えば、それぞれに時間を割いて指導するしかない。本当にその指導が生徒に必要なかどうかを考え直すことも必要。—

「助詞の教えかたについて」

—助詞は後ろにくる動詞と一緒に教えるとよい。例えば「(りんご)を食べます。」「(大阪)へ行きます。」「(電車)に乗ります。」表現が増えてきたら、整理して練習する。

「「は」と「が」の違いの教えかたについて」

—「は」は話題提供の性質がある。極端に言えば、「は」の後にはいろいろな助詞につくこともできる。「が」は使い方が限定される。たとえば、「行きます」は普通「場所へ行きます」となるが、「は」をつけて、「学校(へ)へ行きます」になったときは(へは省略可能)「他の所(へ)は行きません」という考えが頭の中にある。初級者には、「否定のときは『は』を使う」と教えるアプローチもある。(例: チヂミを食べますか?と聞かれたときに、答え方は○「いいえ、チヂミを食べません。」、○「いいえ、チヂミは食べません。」があります。×「チヂミが食べません。」とは言いません。)

「その他の教え方のヒントとして」

—擬音語、擬態語(オノマトペ)は絵を見せたりして想像してもらう。(例: 雨がザーザー降る。雨粒の大きさを描く)「はっと」は息をのむ音、「ぱっと」は動作をともなって教えるとわかりやすい。



「事前アンケートより、サポーターの発言」

—生徒や学校とコミュニケーションの取り方で工夫していること、困っていることは何ですか?—

・生徒とのコミュニケーションで心がけているのは、生徒をほめてあげること。私自身がいろいろ失敗した経験を話したりして、生徒が話やすい雰囲気を作るようにしている。

- ・学校の先生に、学校での生徒の普段の様子を聞いてみたい。
- ・渡日生の担当の先生たちと話しあう機会をもつことで、学校の取り組みと流れを全体的に理解することができ、お互いにより協力して生徒のサポートができると思う。
- ・生徒と話す時は、正しい日本語を指導するように心がけている。具体的には、間違った日本語の使い方が見つかった場合はその場でなおす。特に助詞の使い方と敬語をできるだけ身につけてほしいと思っている。敬語は、先生に対する言葉づかいをきちんとすることで覚えてほしい。ただ、いつも直すと生徒は疲れるので余裕のあるときにするようにしている。



グループごとの話し合いから、サポーターの発言

- ・生徒の日本語能力や教科理解のレベル・問題点をわかったうえでサポートをしたい。
- ・サポーター自身の経験が役に立つと感じられる時とてもうれしい。
- ・生徒との人間関係ができてくると、生徒が分からない時にきちんと「分からない」と言ってくれるようになるので、生徒との人間関係作りが大切である。
- ・限られたサポート時間内で、生徒が話したがっている悩みや相談を聞くことと、やらなければならない学習の両立に悩む時がある。
- ・保護者懇談通訳をすると、親子間の使われる言語の違いから、親子のコミュニケーションの断絶を感じる。
- ・小さい時に来日した子どもの母語教育は必要だと思う。
- ・親は日本語ができないので、学校・子どものことを知らないので問題が複雑になる。
- ・サポート活動中、先生が漢字の苦手な非漢字圏の生徒に「文章を読みなさい」と強制して、生徒はプライドを傷つけられて辛い思いをした時、サポーターとしてどうしてよいか分からなかった。
- ・中国からの生徒の大学進学については、保護者は「大学は文系より理系」「絶対に国立が良い」という考えが強いので問題になることもある。
- ・初めてサポーターを受け入れた学校はどのようなサポートが必要か分かっていない場合がある。そこで活動するサポーターは、学校と「生徒にとってどんな指導が必要か？」という打ち合わせを十分にすることが大事である。
- ・初めて高校にサポートをする時はとても不安である。サポーター同士のネットワークができると良い。
- ・母語を勉強したい生徒には「ワイワイトーク」のような母語によるスピーチコンテストがあることを紹介する。学校の先生は忙しいが、もう少し子どもの気持ちに配慮が必要である。



ピアにほんごより

保護者懇談通訳について、サポーターは保護者と学校の話すことをできるだけそのまま通訳すること。

基本的にはサポーター自身の考えや感情を入れないようにする。学校や先生の考え・意見はサポーターより長時間生徒を見てきて言うので、尊重すること。サポーター自身の意見や感想は、懇談が終わった後で学校に話すようにする。

初めて学校の先生や保護者と会う場合は、前もって学校の考えや生徒や保護者の様子を聞いておくことが必要である。生徒の様子や先生の考えを理解するために、懇談の少し前に学校に行き、打ち合わせをすると学校とサポーターの間で誤解がすくなくなる。

サポーター活動履歴書について、自分のサポーター活動を報告書のようにまとめて、どのような活動をしてきたかを書き留めることをすすめる。今後のサポート活動に役立つし、自分の活動履歴書にもなる。

高校生活オリエンテーション

3月29日(土)午後、府立高校に入学する『帰国・渡日の新入生のためのオリエンテーション』を、大阪府立今宮高校でおこないました。今年度は10校から生徒15人、保護者8人(中国語、韓国朝鮮語、ポルトガル語、タイ語の4言語)の参加がありました。

最初に高校生活を送るために知っておくべきルールの説明があり、帰国・渡日生のイベントを紹介するDVDをみました。授業料減免や奨学金制度の説明では、保護者も熱心に聞いていました。

後半は、先輩2人の体験談を聞きました。1人は大学に進学して

現在就職活動中、もう1人は専門学校に進学して、この春からの就職が決まっている先輩です。勉強でどんなところに努力や工夫をしたか、友人はどのようにできたか、困ったときはどのように相談したか、卒業後の進路を決め方、これからの夢などについて話してもらいました。「友人は自分から積極的に作ろう」「卒業後のことも今から少しずつ考えていこう」という力強いメッセージがありました。終了後の参加者アンケートでは、「この体験談を聞いて高校生活が楽しみになった」という声がたくさんありました。



先輩の話

また、別室では「教員間の相談会」を行いました。付き添いで参加された先生たちが、帰国・渡日生徒の指導経験のある先生たちと交流し、情報交換の場となりました。

2時間半のプログラムはあっという間に終わりました。終わってから、生徒や保護者たちが先生や通訳者と、おしゃべりする様子がみられました。新入生の高校生活のスタートを応援する、このオリエンテーション。「自分ひとりではない」という安心感と、高校生活への希望をもってもらうために、これからも開催していきたいと思います。通訳や資料



高校生活のDVDを観る

の翻訳で協力いただいたサポーターの皆さん、ありがとうございました。

この日は日本語教育教材会社『アルク社』が取材に来られ、『月刊日本語』6月号に、このオリエンテーションと日本語教育学校支援事業についての記事がのります。

お知らせ



① 2007年度 教育サポーターアンケートの結果について

昨年度、府立高校でサポート活動をされた方へのアンケートの結果がまとまりました。サポートをしてうれしかったこと、苦労したことなど、心にひびくメッセージがたくさん集まっています。希望される方にはお送りしますので、メールなどでお知らせください。



② 「あいうえおトランプ」と「こどものためのサポートノート」の出版

ピアにほんごの教育サポーターの宮本雄一郎さんが帰国・渡日の児童・生徒教育のために役立つ教材を出版されました。

「はじめてのあいうえおトランプ」 宮本 雄一郎 ● 作 鈴木 志穂 ● 絵 箱入り 2000円+税

出版社 太郎次郎社 <http://www.tarojiro.co.jp/>

このトランプの特長

◎最初は日本語がわからなくても、絵と数字を見てだれでも遊べる。

◎子どもの生活に密着したことばで遊べる。

◎外国人にとって理解しづらい「行と段」の感覚、50音表が自然に身につく。

◎濁音・半濁音・促音・拗音・長音も、ぜんぶわかる。

「こどものためのサポートノート」は学校や教室で子どもをサポートする際、子どもの健康状態、困っていること、勉強の様子、今日の学習内容などを記録しておくためのノートです。280円

注文先: ブックル出版 <http://www.mybookle.com/browse/main> TEL 050-3034-5018(平日10~18)



③ 多文化共生の集い

帰国・渡日生徒のためのイベントが開催されます。生徒さんの様子を知り、見守るよい機会です。ぜひ、参加してみてください！

『 新入生歓迎！交流会2008 』

日時:2008年5月31日(土) 10:30~16:00

場所:桃谷高校 (JR環状線「桃谷」駅下車、東南へ約1キロ)

参加希望者はピアにほんごまで連絡ください。



④ 今年度の教育サポーター登録のお願い

今年度の登録がまだの人は、登録書をお送り下さい。定期的な活動はできないという人も、保護者懇談通訳など1日の活動もあります。また、登録されるとサポーター交流会や、ピアにほんごメーリングリストにも参加できます。

(登録書の書式は2月にメールなどでお送りしていますが、必要な方はお知らせください)

⑤ 2008年度の日本語教育学校支援事業について

現在のところ、7月末までの期間で実施されることは決定しており、新年度の教育サポーター派遣も始まっています。8月以降も継続される予定ですが、確定するのは大阪府の6月議会になります。結果はあらためて皆さんにお知らせします。

⑥ ピアにほんごメーリングリストの参加お誘い

ピアにほんごメーリングリストに参加して、みんなで情報交換をしたり、相談にのったり、分からないことを教えてもらったりしませんか？ ピアにほんご教育サポーターに登録していただいた皆さんはメンバーになれます。参加したい方はピアにほんご center@pianihongo.org に「ピアにほんごメーリングリスト参加希望」として連絡ください。



ピアにほんご

大阪市港区築港2丁目—8—24 pia NPO 2階

Tel.06-6573-2133,Fax. 06-4395-1125

E-mail: center@pianihongo.org